

国体観念というものは、かくかくのものとして、成程そういうものかと合点するような観念ではない。僕等の自国の歴史への愛情の裡にだけ生きている観念です。

小林秀雄



國の支え

(題字・中井信夫元大阪府議会議長)

関西防衛を支える会 (略称・関防会)
〒540-0012
大阪市中央区谷町2丁目7番6-605
TEL 06-6947-0831
発行人 高橋季義
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第6号 (春季号)

平成13年4月1日(日)
(皇紀2661年)
(大正紀元90年)
(昭和紀元76年)

国の守りを支える草の根運動の展開を!



挨拶する高橋季義会長(壇上)と左より吉村大阪府議、西村衆議院議員、芝田大阪郷友会長、中井会長代行

休日もかわらず、このように多数の参加があったら、当会の活動に格別のご理解、ご協力を頂き心から感謝申し上げます。

最近の国内外の諸情勢を念に思つた教育問題である。決して無駄ではありません。見つけ、あの大戦の意図を改めて見直さずにはおられない。大戦における日本軍の勇戦敢闘もむなし、日本は負けました。しかし、その勇士たちの犠牲は決して無駄ではありません。念に思つた教育問題である。決して無駄ではありません。見つけ、あの大戦の意図を改めて見直さずにはおられない。大戦における日本軍の勇戦敢闘もむなし、日本は負けました。しかし、その勇士たちの犠牲は決して無駄ではありません。

高橋会長の挨拶要旨

決して無駄ではありません。念に思つた教育問題である。決して無駄ではありません。見つけ、あの大戦の意図を改めて見直さずにはおられない。大戦における日本軍の勇戦敢闘もむなし、日本は負けました。しかし、その勇士たちの犠牲は決して無駄ではありません。

第三回定期総会開催

去る二月十八日、午後四時から新阪急ホテルに於いて百名余の出席者のもと、定時総会が開催された。国歌斉唱などの皇民儀礼に始まり会長挨拶の後、会計報告、役員選出、活動方針などが承認され、同五十分に終了した。

五時より防衛講和「国際情勢の見方」と題して、多数の来賓を迎え、佐藤守元空将の熱の入った講演が行われた。(講演要旨は二面に掲載)六時より、懇親会が開催され午後八時に終了。

- ### 本号の記事紹介
- ◆二面 国際情勢の見方 元空将 佐藤守
 - ◆三面 隠れた英雄 元駐在武官 加藤寛二
 - ◆四面 まけてなるものか 理事 三好誠
 - ◆五面 私の海軍生活 元統幕議長 矢田次夫
 - ◆六面 厚木海軍航空隊 元少年兵 桑原栄一

今く政治批判の容易な時期もないだろう。首相についても、自民党についても、さらに野党についても、まさにその故に、私は政治批判の言葉をあれこれ並べ立てるのがいやになった。古人のいった「物言えば唇寒し」の思いがしきりである。

旧友の宮崎正顕氏・津珍彦先生の高弟の年賀状にこうあった。「哀しむ十年、蘇生日本、つまり「維新」の世を迎えることが十分にできるかも知れぬ。だがこの私は、私の目の黒いうちに日本を立ち直ることは難しいのでは、時折そう感じることがあっても、その可能性だけは考えたくない、というのが私の切なる願いだったから、宮崎氏の言葉に私はうたえただけである。

しかしこの国の現実を冷静に見て取るかぎり、もう我々の日本はトコト乱れに乱れるほかに途はないのかも知れぬ。

政治批判ではなく文化批判を

「神風」を期待しても空しいのではなからうか。短期的に政治批判ではな、もっと息の長い、現実の底にまで目をつけた文化批判をせねば、私は今そう思う。

たとえば憲法改正。これが戦後の長い間、我々の先輩・同志たちの願望だった。だがこの問題を、政治の次元だけで語るのではなく、大きく欠けることがある。な「乱世」の一語に私はしばしばとどまった。宮崎氏は私より二十は若いだろう。氏ならば乱世の時代が過ぎて「蘇生日本」、つまり「維新」の世を迎えることが十分にできるかも知れぬ。だがこの私は、私の目の黒いうちに日本を立ち直ることは難しいのでは、時折そう感じることがあっても、その可能性だけは考えたくない、というのが私の切なる願いだったから、宮崎氏の言葉に私はうたえただけである。

念に施した洗脳工作(War Guilt Information Program) 特に「戦争犯罪意識」の汚染を洗い流す……それが憲法改正の最大の目的ではなからうか。無論、その核心には皇室の問題、天皇の問題があった。

この半世紀の間に、日本国民の性格が変わったのである。それに応じて指導者たちの性格も変わったのである。神原英資氏が、同じ世代でありながら、いや、同じ世代であるからこそかえって鋭く、その欠点を指摘するところまで、昭和二けた世代。それは、端的に「歴史を知らぬ」世代なのである。その世代が、現在、政、官、財界を牛耳っている(神原「進歩主義からの訣別」平成八年、読売新聞社)。

そのような人々の構想し提案する憲法改正がどのようなものになるのか、大凡は想像がつく。最大の懸案である自衛権の問題も、もっぱら、日米間の軍事同盟関係の脈絡において考えられ、処理されるのではなからうか。

国防とは、元来が自国の歴史と文明の尊厳を守るためのものだった。それは国民一人ひとりの高貴な義務であった筈だ。世界中どの国民国家の国民にも原則として負わされている「兵役」とは、そのような性格のものであった。

そして日本国民にとって、自衛権回復の課題とは、敗戦から占領につづく、いわば「受動態」の歴史を、能動態のそれにして直す第一歩であるべきだった。

それが、今、集団的自衛権がどうのこうのと、技術的な問題に歪められ、狭められている。洋書の広告を見ていたところ、私の眼をうつ標題があった。「オキナワの女」(ルース・キーン著、コネル大学出版部)。副題に「兵營の島からの九人の声」とある。

嗚呼。沖縄とは、米国人の目から見れば、米軍の兵營の立ち並ぶ島に他ならないのだ。沖縄こそ、戦後日本の本質的な歪みがあらわなのである。つまり米軍による占領から戦後日本が出發し、以来一日たりとも米軍が日本から離れることはなかった、という事実。

今の日本の指導者たちが、この「歴史を知らぬ」、少なくとも身にしみて感じない所にこそ、現代日本の果てしない混乱の最大の原因があるに相違ない。そう私は信じている。

(平成十三年三月三日)

防衛講話

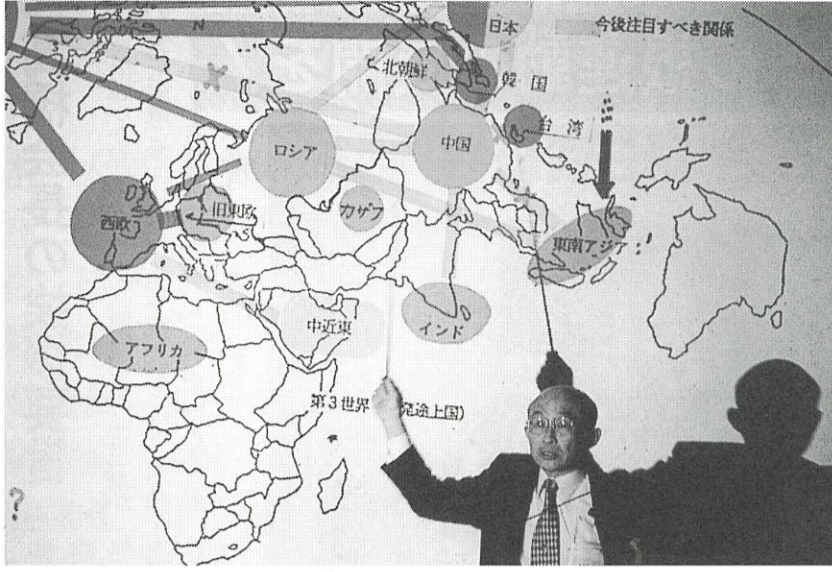
「紹介頂きました佐藤です。一時間の予定と聞いておりましたが、四十五分にしていただけたので、早くお喋りしますので宜しくお願いします。」

私は防衛大学卒業後、幹部候補生学校を経て戦闘機に乗り、その後、各地を転々と勤務しましたが、その間、若くして命を落とした仲間も何名かあります。私は幸にも三千八百時間飛行しましたが無事に生き伸びる事が出来ました。その間、残念ながら、防衛問題について直言する航空自衛官は殆どいませんでした。OBとなった私は防衛研究者の立場から潜在的な諸問題について、引き続き積極的に提言していきたくて考えています。

ソ連崩壊の予兆

本日のテーマ「国際情勢の見方」ですが、どうも日本人は国際情勢の見方が解っていない様に思います。ここに一九八八年一月十日の産経新聞の切抜きがあります。OHPを指す、これによるとワシントンポストは既に前年の十二月の時点でソ連の崩壊を予測していた、と書いています。二十四時間神経を尖らせている新聞記者にはいろんな情報が入って来るわけ、この記事も産経新聞の外信部長が書いています。その後、日本の評論家や学者などは誰もソ連の崩壊を予測することは出来ませんでした。

三佐(少佐)当時、私は外務省国連局軍縮室に赴任して、ジュネーブの軍縮委員会に立ち寄りました。それまでベルリンの壁を始め、各国を視察しこの目で見てきたが、訪ソ時は日本漁業交渉の最中で、日本はその観点からソ連を見ていると見せられました。私は駐在武官の奥さんに案内して



た。三佐(少佐)当時、私は外務省国連局軍縮室に赴任して、ジュネーブの軍縮委員会に立ち寄りました。それまでベルリンの壁を始め、各国を視察しこの目で見てきたが、訪ソ時は日本漁業交渉の最中で、日本はその観点からソ連を見ていると見せられました。私は駐在武官の奥さんに案内して

戦構造は崩壊する」と読んで感ずるくらいだから、レオン大統領とそのスタッフたちはその点を十分承知して、対ソ交渉を仕掛けていたに違いありません。

私が知っている浜松のメロン栽培農家は、約四百本の苗木を温室で育てていますが、一割くらいはダメになるので、約三百六十本の苗木一本に一ヶだけ果実を残して養分を集中させ温室で育てる高級メロンで、一ヶ百万円以上の値段になる。私の予測は米の軍事力を具体的に分析した結果に基づくもので、グラフにみる

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

修正が必要な日本人の世界観

日本人が、国際情勢認識

国際情勢の見方 軍事的観点から

元空将 佐藤守 (防大七期)

「要旨」

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

「食糧と石油を確保すれば戦争は起らないか?」

その昔、通産省のキャリアを交えて議論した時に、ある課長が自衛官は脅威を感ずるが、一体日本に差し迫っている脅威とは何ですか?と問いました。後輩の自衛官が「キッシンジャーの論によれば脅威とは、北朝鮮のミサイルの脅威を感じているからで、北朝鮮のテポドンがカナダに届くかも知れない、そこを少しでも脅威が存在すればあらゆる努力をして未然に防げ、これが独立国家の姿です。東欧諸国も同様の気持ちを持っている。日本もこういう国家としての基

英雄の葬送

二〇〇〇年十二月十日、午後二時、南ジャカルタのインドネシア共和国カリバタ英雄墓地の広場をジャカルタ首都警備隊の儀仗兵に先導され、遺影を胸に抱いた御息エディ・ストリスノ・オット氏、その後、国軍兵士に担がれ前後左右を吊れ銃(ツレツツ)の儀仗兵に警護された棺が葬送曲の流れるなか肅々と行進する。遺族等関係者約百名がそれに続き、棺はやがて純白のアンガ・ムラテイ(ジャスミンの花で日本の桜と同じ国民的花)の花咲く英雄墓地に蘭の花で覆われながら手厚く葬られた。

これは第二次大戦終了後インドネシアに残留し、対オランダ独立戦争に身を投じ、独立達成後は、日系インドネシア人社会の確立、インドネシア・日本両国の友好の掛橋として心血を注がれた「隠れた英雄」乙戸昇(おとど)氏の遺骨が、元陸軍少尉の敵かな別れの儀式であった。インドネシア政府からは既に名誉のゲリラ勲章が授与されている。

残留日本兵

乙戸昇氏は早稲田大学専門部卒。一九四三年、近衛歩兵第三連隊に入隊、スマトラ島メダン市に派遣された。一九四四年ジャワ南方予備士官学校卒業、少尉に任官。機関銃小隊長を任命されて間もなく終戦を迎えた。彼は大東亜共栄圏建設を目指した軍政下で立派に任務を果たした。日本が一九四四年九月七日、将来の独立を約束していたインドネシアのために残留を決

ヤヤサン福祉友の会

この戦争期間中に約四百名の残留日本兵が戦死したといわれている。戦友は日本に帰る道の上で寝ている。この戦争期間中に約四百名の残留日本兵が戦死したといわれている。戦友は日本に帰る道の上で寝ている。

元在インドネシア防衛駐在官 加藤 寛二(防大七期)

が、当時の私は、脱走兵という身分の残留者を見下し、公的には関わらない方がよいと思っていたので余り関心を示さなかった。

記者、国外追放処分

この事件で付近の家屋多数が破壊され多くの死傷者を出し、近くにある日本人

高邁な紳士

乙戸氏は会社の社長であった。彼の部屋におおきく、おとなしい紳士が居た。彼は、おとなしい紳士が居た。彼は、おとなしい紳士が居た。

長老、菊池氏の願い

海上自衛隊練習艦隊の受入れ準備がほぼ完了し、あとは艦上パーティー等の招待者名簿の作成だけとなった。一九八五年三月下旬、私は日本料理店「菊川」の主人、菊池輝武さんを訪ねた。この菊池さんの長男は東京六本木でインド

残留兵を艦隊に招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中



弾薬庫爆発事件

着任して四か月ほど経った頃、日本レストラン「菊川」の店主菊池輝武氏が突然大使館に私を訪ねて来られた。その時、菊池氏の話からヤヤサンに対する彼の熱い気持ちが伝わってきた。私が、当時の私は、脱走兵という身分の残留者を見下し、公的には関わらない方がよいと思っていたので余り関心を示さなかった。

武官、約束を破る

一九八四年十二月のある日、私はジャカルタ総領事の細本領事からヤヤサン出動したのは十時半頃であった。約束の九時から一時間半も過ぎていた、乙戸氏は一時間も待たれたうえ帰宅されたとの事であった。

高邁な紳士

乙戸氏は会社の社長であった。彼の部屋におおきく、おとなしい紳士が居た。彼は、おとなしい紳士が居た。彼は、おとなしい紳士が居た。

長老、菊池氏の願い

海上自衛隊練習艦隊の受入れ準備がほぼ完了し、あとは艦上パーティー等の招待者名簿の作成だけとなった。一九八五年三月下旬、私は日本料理店「菊川」の主人、菊池輝武さんを訪ねた。この菊池さんの長男は東京六本木でインド

残留兵を艦隊に招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

招待する

私はその場では即答できなかったが、帰りの車の中

(以下四下段へ続く)

昭和十五年といえは私の満五歳である。覚えていた歌にこんな歌詞がある。

金鐘輝く日本の栄ある光身につけて今こそ祝えこのあした紀元は二千六百年

ああ一徳のむねはなる十一月三日、紀元節の日には、ラジオがこの歌ばかりかけて大人はみな御馳走を作って大騒ぎしていた。夜は提灯を持った人々がお宮さんに並んで行った。

どうして「このあした」なのかと幼い疑問。朝のことをあしたなんて言った。あしたのあしたじゃないんだ。でもあかあかと電飾を灯した花電車がまぶしかった。国中大騒ぎで祝ったんだ。

後世の人は華々しい絶頂期を迎えたと思っただろう。一等国だ東洋の盟主だと言いつけられ、大陸戦線は次々に勝利していった。しかし警沢禁止令が發布され、米穀配給制が実施、貴族の統制令、政党は廃止され大政翼賛会が発足した。兵隊さんの苦勞を思えといわれれば、辛抱も儉約も国民の努めだと思っただ。

国運を賭して戦ったロシアに勝ったのは四十五年前、第一次大戦の景気に沸いたのは二十五年前、関東大震災は十七年前である。東京が壊滅的打撃を受け、復興には世界不況の影が忍び寄って来ていた。排日移民法が大正十三

年、日貨は排斥されウォール街の大暴落は昭和四年である。貿易が不振になると外貨準備が減る。原材料輸入がままならぬ。満州国建国で財務は火の車だった。新生活運動で節約した。

陸軍は兵隊の数の経費が決まる。海軍は保有艦艇の量で維持費が左右される。我が国の主力艦(戦艦)は英米の七割に制限された。日本は列強の圧力に涙をのんで屈したと思われているが、左にあらず、削減率が圧倒的に高かったのはアメリカである。廃艦するのは旧式艦からだから削減率が高いほど残るのは新鋭の高性能なものである。皮肉なことに新しい艦ほど維持費が少ない。思い切って削減したアメリカ艦隊は経費も節約できて二重の体質改善を果たしたのである。造船能力と兵器開発能力は一層充実され、昭和十年ロンドン会議で補助艦艇が複製し、無条約時代に突入するやアメリカは得たりかしくしと建艦競争に突入した。「今やアメリカは十二日に一隻つづ進水」と十五年一月二十八日付日本ニュース映画は空母ホーネットの進水を報じている。日本海軍の三倍のテンポなのだ。

その上、北海道や東北に凶作が続いていた。昭和九年の文藝春秋に岩手県の小学生五年生、田浦勘七郎君の綴り方が載っている。…(米がないので)粟

を御飯に炊いて「弁当を学校に持っていきけない」とお母さんが泣きまじった。栗が捨らないから学用品も買えませぬ。何とかしてお米やお金を降らせたいと思います。(この地は栗の実で現金収入を計っていた)...

である。そして健康な者は出征した。純朴な率直な青年たちはお国のためと競って勇み立った。こんな状態で侵略をしようとする野望を持つものがいたのだらうか。

国際緊張は前年にはノモンハンの大消耗戦、支那事変は三年目に入り、ロンドンでは日貨排斥二十一ヶ国大会が開催された。中国の排日運動は激しく、日本は腹背から締め出され、各国内にドル商圏、ポンド商圏とプロック化が進み、ドイツ、イタリアと組んだ日本はますます孤立して、街の景気は何処もかしこも沈んでいった。

町会では出征兵士を送る行事に婦人会が総出で支度をした。駅前や市場の辻にはいつも千人針を頼む女の人が行んでいった。応召する兵が弾に当たらないように厄除けの縫取りをした。腹巻きを千人の協力で作るのた、乳飲み子を背負った若いお母さんに、母もよく運針を手伝った。

阪神電車の甲子園の近く、時折甲子園球場の喚声か聞こえて来た。野球の無い夏は映画会や花火大会をやることもあった。戦車の実物を使って模擬戦をしたことがあった。鉄条網や塹壕が作られていて長い間待たされたが、あつと言つ間に淋しくても、お腹が空いた。近く川西航空機

まけるもんか

誠好三 理事 自伝的爱国少年記

岩手県の田浦姓四十六軒を電話取材した。九戸郡の田浦エンさん(七十才)は兄嫁だった。「勘七郎は十九才で死にました。戦争で肺病でした。私は話しか知りませんが、よくできた子だったと聞いています。」

「男の子は我慢が第一、寒くても暑くても、娘身売の相談受付が役場に置かれていた頃の話

「かとり」に残留した元日本兵と家族が招待を受けたのです。参加した者約四十名は、四十年以上も前に

「筆者の現職・米陸軍第五〇〇軍事情報群アジア研究情報分析官(座間キャン

の工場があり、唯一実用になった大型機だった。後に二式大艇ができるのだが、九七式の悠々と飛ぶ姿が好きだった。一等

のシンボルのような思いで飽かずに眺めていたものだった。

日本海軍の船でこの地に輸送され、いろいろな軌跡を辿って生き続けながら、今、こうして故国の自衛艦に乗船できたという感慨でそれは言葉で表し難いものがありました。乗船後、伊東隆行練習艦隊司令官殿のごあいさつや、映画、艦内見学、そして和食の昼食会等、艦長の皆様に心づづしを頂きました。白のセーラー服の若い隊員たちが敬礼で見送って下さる姿に胸がつまり「夢」でも見ている心地で下船したのです。

また、朝日新聞一九八五年九月二十日の朝刊には、前記の田村記者の海外特集が四枚の写真と地図を挿入しながら、八段抜きで大々的に掲載された。その内容は以後のヤヤサンの地位向上に大きく貢献したものと確信します。そして、私の名前を一切出さない、という約束を守り、弱い立場の残留元日本兵への尊敬と敬意をこめて書かれているこの記事を読んで、私は田村記者の豊かな人間性に触れ、感謝と共に新聞記者への偏見を改めるきっかけとなった大事な記事となった。

感激の元日本兵

私としては政治問題化するのを避けなければならぬ。あくまでも、大使館や司令官という公的立場ではなく、たまたま「かとり」艦長が居合わせた見学者に残り物を昼食として提供した、という形をとった。従ってこのパーティーには大使館関係者は一人も出席せず、鈴木ジャカルタ総領事以下総領事館関係者に同席して頂いた次第である。そんなわけで、司令官と私は、挨拶と写真撮影終了後、そつと艦を抜け出して諸行事の間、近くのアンチヨール・ゴルフコースで時間を潰し、新聞記者等との出会いを避け、行事終了まぎわに艦に戻って見送った。この「かとり」訪問の状況は、故小野寺忠雄氏の「おじいさんは日本人だった」(佐々木タカ編集)という本の中に次のように書かれている。

「一九八五年(昭和六十一年)九月、私共残留者に思いもかけない機会が訪れました。ジャカルタに寄港した海上自衛隊の練習艦「かとり」に残留した元日本兵と家族が招待を受けたのです。参加した者約四十名は、四十年以上も前に

「筆者の現職・米陸軍第五〇〇軍事情報群アジア研究情報分析官(座間キャン

の工場があり、唯一実用になった大型機だった。後に二式大艇ができるのだが、九七式の悠々と飛ぶ姿が好きだった。一等

のシンボルのような思いで飽かずに眺めていたものだった。

日本海軍の船でこの地に輸送され、いろいろな軌跡を辿って生き続けながら、今、こうして故国の自衛艦に乗船できたという感慨でそれは言葉で表し難いものがありました。乗船後、伊東隆行練習艦隊司令官殿のごあいさつや、映画、艦内見学、そして和食の昼食会等、艦長の皆様に心づづしを頂きました。白のセーラー服の若い隊員たちが敬礼で見送って下さる姿に胸がつまり「夢」でも見ている心地で下船したのです。

また、朝日新聞一九八五年九月二十日の朝刊には、前記の田村記者の海外特集が四枚の写真と地図を挿入しながら、八段抜きで大々的に掲載された。その内容は以後のヤヤサンの地位向上に大きく貢献したものと確信します。そして、私の名前を一切出さない、という約束を守り、弱い立場の残留元日本兵への尊敬と敬意をこめて書かれているこの記事を読んで、私は田村記者の豊かな人間性に触れ、感謝と共に新聞記者への偏見を改めるきっかけとなった大事な記事となった。

第3師団39周年創立記念

- * 5月13日(日) 午前10時より 観閲式、展示訓練など
- * 見学希望者は弊会または下記までお電話下さい 伊丹市広畑1-1 駐屯地広報室 電話0727-81-0021

信太山駐屯地創立44周年記念

- * 4月8日午前10時より 観閲式、訓練展示、音楽演奏
- * 見学希望者は弊会または下記までお電話下さい 大阪府和泉市伯太町官有地 電話0725-41-0090 交通機関…阪和線JR信太山下車

平成13年度の会員募集中

御入会のお願い

- * 法人会員・年会費 20000円(1口)
- * 維持会員・年会費 10000円(1口)
- * 一般会員・年会費 3000円(1口)

銀行振込みの場合、入会者の住所が判らない為紹介者の氏名をご連絡くださるようお願い申し上げます。

郵便振替 No.00960-2-137035
 加入者名 関西防衛を支える会
 住友銀行守口支店 普通口座 1261314
 口座名 関西防衛を支える会

~12ホール/1357ヤード/パー35~ PUBLIC COURSE

淀川ゴルフクラブ

533-0024 大阪市東淀川区柴島2-6-29 TEL(06)6322-5402 FAX(06)6326-6911

本紙持参の方¥1,000.-OFF致します。

夜明けから日没まで、いつでもプレーが楽しめるパブリックコース。12ホール、パー35女性やビギナーにも安心してプレーできるコースレイアウト。年中無休で、早朝から到着順にスタートできます。プレーのあとは、クラブハウスでリフレッシュ。

電車…阪急千里線(地下鉄堺筋線)柴島駅下車、徒歩5分
バス…大阪駅前37番(井高野車庫行)、長柄橋北詰下車



厚木海軍航空隊

桑原栄一 (大栄産業社長)

「呉志二七九」この数字を七十一歳になった今も忘れることはない。昭和十九年八月二十三日、十四才五カ月で入隊した海軍軍人としての私を証明する数字である。当時、最も若い兵隊だった。乙飛予科練として藤沢航空隊で通信の教育を受けた。高等科を出ただけの私には三角函

ある少年兵の思い出

戦法の習得に励んでいた。電探の波長は極秘だった。訓練や勉強は厳しく泣きたくなることも度々あったが郷里の岐阜駅を歓呼の声に送られて出た事は子供心にもプレッシャーで、入隊前日の身体検査は特に心配した。ここで不合格になれば海軍航空隊に配属されず、滑走路を嘗めるように掃除をした。海軍の最下位の兵隊だった。倉庫に入りリユクサツが桑の実を摘んでいる姿を見て涙がこぼれた。昨年、白寿を迎えた母は孫から「生涯で一番嬉しかった事は何か」と聞かれて「栄一が滑走路を嘗めるように掃除をした。」と答えた。八月十五日の玉音放送はヒットで聞いた。意味が解らなかつたが分隊長が説明してくれ、日本が負けたと知って無性に涙が溢れた。そして軍律の無くなつた軍隊の無様な様子を見ることになった。付近の農家などは基地に入り、大八車に食糧や生活物資を満載して持ち出してた。土産を詰めたリュクサツを盗まれていた。岐阜駅周辺は一面の焼け野原であり、空腹と盗難が重なって暗然として実家まで二時間ほどかかって歩いた。懐かしい我が家の前で母が桑の実を摘んでいる姿を見た。つまり下から伊藤を狙った、それが安重根であった。その拳銃はプロリングの七連発であったが、伊藤の受けた第一弾は肩から胸部乳下止まり、第二弾は右腕関節を突抜けて臍下に止まっており、この二つが致命傷となつたのである。

安重根は、果たして伊藤を暗殺したのか？



『暗殺・伊藤博文』 上外垣憲一著・ちくま新書・六百八十円

明治四十二年十月二十六日、ハルビン駅頭で伊藤博文は三発の銃弾をうけて倒れた。随行していた貴族院議員の室田義文は、大きなロシア儀仗兵の股の間からピストルを突き出している者を見た。つまり下から伊藤を狙った、それが安重根であった。その拳銃はプロリングの七連発であったが、伊藤の受けた第一弾は肩から胸部乳下止まり、第二弾は右腕関節を突抜けて臍下に止まっており、この二つが致命傷となつたのである。

編集後記

伊藤を狙撃した者は右肩上から狙つたことになり、室田義文は駅の二階から撃つたものが真犯人と考えた。そして伊藤に命中し、致命傷となつた銃弾はフランス騎馬銃のものだったと云う。貴賓を迎えて警戒厳重なハルビン駅の二階に騎馬銃を持ち込める者は誰か？

役員名簿 (50音順)

特別顧問	中山 正暉	西村 眞悟	依田 智治
相談役	沖田 裕	小林庄一郎	芝田 武治
	鈴木 満男	中島 元	能村龍太郎
会長	高橋 季義		
会長代行	中井 信夫	阪本 太郎	津村 忠臣
副会長	黒田 泰弘		
	勢田 信行	吉村 伊平	
監事	梶川 勝平		
事務局長	前田 稔	事務局次長	石丸 昌司
総務部長	山根 穰	総務副部長	渡辺 勝身
財務部長	山本 覺	財務副部長	長田 雅恵
事業部長	保口 廣幸	事業副部長	山下 弘文
広報部長	新川 貞敏	広報副部長	赤田 友則
渉外部長	森 實	渉外副部長	高見 哲郎
常任理事	石田 吉末	古城 勲男	児玉 敦
	小味 潤雄	林 孝穆	平井 章夫
	古垣 美智子	望月 敏男	
理事	海原 芳郎	小味 潤育子	釈迦郡 文雄
	筒井 信雄	西島 久美子	濱田 良昭
	三好 誠		

が無事に復員した事だと答えていたと云う。私は今、上海と大阪を毎月頻りに往復して商売に励んでいるが、あの焼け野原に渡して午後二時頃、藤沢駅で乗車した。岐阜駅に上ったのは夜中の二時頃であった。駅のベランダに夜明けまで仮眠をしていたが、目覚めると復員土産を詰めたリュクサツを盗まれていた。岐阜駅周辺は一面の焼け野原であり、空腹と盗難が重なって暗然として実家まで二時間ほどかかって歩いた。懐かしい我が家の前で母が桑の実を摘んでいる姿を見た。つまり下から伊藤を狙った、それが安重根であった。その拳銃はプロリングの七連発であったが、伊藤の受けた第一弾は肩から胸部乳下止まり、第二弾は右腕関節を突抜けて臍下に止まっており、この二つが致命傷となつたのである。

前には最後から二十番目くらいだが年齢が一番若い。この国家の大事に参加できた事を誇りにして毎朝、海軍体操をして健康を維持している。

維新政党新風

赤田 友則

大和心のつどひ

交通至便・駅前・泊五五〇〇円税サ込

ビジネスインナンバ

〒556-0011 大阪市浪速区難波中一―一―二

TEL(0)66451777

FAX(0)66451771

昭和三十九年、書類を焼却し無線機を破壊して玉砕した受信不能なアツツ島守備隊に、受信不能を「承認」して山崎保代大佐の悲痛な電文を受け、アツツ島守備隊を見殺しにする大本営の作戦指導に、軍司令官樋口季一郎中将は憤慨される。陸続きならば即座に手兵を差し向けることが出来るのだが、何分にも北海の孤島である。

維新運動の青年将校に理解があり、陸士同期の石原莞爾將軍とは肝胆を照らす仲で石原構想の良き理解者だった。戦後は鎌倉の海岸にたたずみ北の海を眺めておられたそう。佐藤元空將の警抜の熱弁を聞いて、借景として樋口將軍がうかんだ。

厚木海軍航空隊

桑原栄一 (大栄産業社長)

「呉志二七九」この数字を七十一歳になった今も忘れることはない。昭和十九年八月二十三日、十四才五カ月で入隊した海軍軍人としての私を証明する数字である。当時、最も若い兵隊だった。飛べ、飛べ、と藤沢航空隊で通信の教育を受けた。高等科を卒業した。高等科を卒業した。高等科を卒業した...

ある少年兵の思い出

戦法の習得に励んでいた。電探の波長は極秘だった。訓練や勉強は厳しく泣きたくもなると度々あった。が郷里の岐阜駅を歡呼の声に送られて出た事は子供心にもプレッシャーで、入隊前日の身体検査は特に心配した。ここで不合格になれた。海軍の最下位の兵隊だった。倉庫に入りリュクサックに缶詰などを詰め、郷里に向かったが、ついでに夜間戦闘機「月光」の中にあった落下傘を一つ持ち出した。落下傘を一つ持ち出した。落下傘を一つ持ち出した...

役員名簿 (50音順)
特別顧問 中山 正暉
相談役 沖田 裕
会長 高橋 季義
会長代行 中井 信夫
副会長 黒田 泰弘
監事 梶川 勝平
事務局長 前田 稔
総務部長 山根 穰
財務部長 山本 覺
事業部長 保口 廣幸
広報部長 新川 貞敏
渉外部長 森 實
常任理事 石田 吉末
理事 小味 淵敦雄
古垣 美智子
海原 芳郎
筒井 信雄
三好 誠
西村 眞悟
小林 庄一郎
中島 元
阪本 太郎
吉村 伊平
事務局長 石丸 昌司
総務副部長 渡辺 勝身
財務副部長 長田 雅恵
事業副部長 山下 弘文
広報副部長 赤田 友則
渉外副部長 高見 哲郎
古城 勲男
林 孝穆
望月 敏男
小味 淵育子
西島 久美子
依田 智治
芝田 武治
能村 龍太郎
津村 忠臣
石丸 昌司
勝身 雅恵
弘文 友則
哲郎 敦夫
兄玉 章夫
平井 文雄
釈迦郡 良昭

ぼおめと郷里には帰れない、と悲壮な覚悟だ。八月十五日の玉音放送は、ヒットで聞いた。意味が解らなかつたが分隊士が説明してくれ、日本が負けたと知って無性に涙が溢れた。そして軍律の無くなつた軍隊の無様な様子を見ることになった。岐阜駅にいたのは夜中の二時頃であった。駅のベランダに夜明けまで仮眠をしようとしたが、目覚めると復員士産を詰めたリュクサックを盗まれていた。岐阜駅周辺は一面焼け野原であり、空襲と盗難が重なって暗然として実家まで二時間ほどかかって歩いた。



『暗殺・伊藤博文』 上外垣憲一著・ちくま新書・六百八十円

安重根は、果たして伊藤を暗殺したのか?

明治四十二年十月二十六日、ハルビン駅頭で伊藤博文は三発の銃弾をうけて倒れた。随行していた貴族院議員の室田義文は、大きなロシア儀仗兵の股の間からピストルを突き出している者を見た。つまり下から伊藤を狙った、それが安重根であった。その拳銃はプロニングの七連発であった。肩から胸部乳下止まり、第二弾は右腕関節を突抜けて臍下に止まっておき、この二つが致命傷となつたのである。伊藤を狙撃した者は右肩上から狙つたことになり、室田義文は駅の二階から撃つたものが真犯人と考へた。そして伊藤に命を中し、致命傷となつた銃弾はフランス騎馬銃のものだったと云う。貴賓を迎えて警戒厳重なハルビン駅の二階に騎馬銃を持ち込める者は誰か?

編集後記

*群書類誌が洪水のように氾濫している今日、小紙を皆様方に読んで貰える紙面とするに腐心している。田夫野人を見習う編纂子には難事である。第六号発行に際して能力不足の御海容をこつ次策。*早春の園芸店を覗いたら「アツツ桜」という五寸ほどの可憐な白い草花があった。店主に聞くと原産地は、かのアツツ島らしい。「時」これ五月十二日、山崎大佐指揮を執る...とアツツ島玉碎のメロディが浮かび、遙かな北海をしのび四株求めた。一兵の救援も請わず、只

が無事に復員した事だと答えていたと云う。私は今、上海と大阪を毎月頻りに往復して商売に励んでいるが、あの焼け野原に渡して午後二時頃、岐阜駅に降り立ったのは夜中の二時頃であった。駅のベランダに夜明けまで仮眠をしようとしたが、目覚めると復員士産を詰めたリュクサックを盗まれていた。岐阜駅周辺は一面焼け野原であり、空襲と盗難が重なって暗然として実家まで二時間ほどかかって歩いた。懐かしい我が家の前で母が桑の実を摘んでいる姿を見て涙がこぼれた。昨年、白寿を迎えた母は孫から「生涯で一番嬉しかった事は何か」と聞かれて「栄一が無事に復員した事だ」と答えていたと云う。

維新政党新風
赤田友則
大和心のつどひ
交通至便・駅前・泊五五〇〇円税サ込
ビジネスインナンバ
〒556-0011 大阪市浪速区難波中一―一―二
TEL(06)64517771
FAX(06)64517771

さらには伊藤博文の満州での警護の責任者は旅順憲兵隊長の安島大佐であり、明石とは陸士の同期で極めて親しい。安島は「後はロシアの守備範囲である」と伊藤の警護を長春(新京)で打ち切った。安重根の公判が旅順で開かれると、その期間中明石は安島の家に泊り込んで、すべての公判を傍聴した、と言った。後年、韓国憲兵隊長になった明石が所用で東京に来ると、時の首相、山本権兵衛は明石を陰謀の首謀者扱いして常に密偵に尾行させて、明石を辟易させた、と云う。この書物は日清戦争、日露戦争、日韓併合などの背景として当時の明治政府、朝鮮半島、満州、ロシアの政治状況が詳しく描かれている。明治天皇が日清戦争を「朕の戦争ではない」と伊藤に、受信不能を、承知で毎朝激励の打電を命じられたぞ。数千キロを飛んだ優待は北海の魂魄に届いたのだろうか。中将はハルビン特務機関長時代(昭和十三年)に満州国に赴き、五族協和を実践され、特に厳寒のシベリアをさまようユダヤ難民二万人の救済と満州通過に尽力された。極東ユダヤ人大会に来賓として出席され、条件としてキスカ島守備隊を撤退させる為の艦船の手配を強硬に申し込んだ。かくしてキスカ島守備隊は濃霧のなか奇跡の撤退ができた。昭和天皇は、書類を焼却し無線機を破壊して玉碎した受信不能なアツツ島守備隊とも聞く。また、陸軍革新派「桜会」のメンバーとして昭和

維新運動の青年将校に理解があり、陸士同期の石原莞爾將軍とは肝胆を照らす仲で石原構想の良き理解者だった。戦後は鎌倉の海岸にたたずみ北の海を眺めておられたぞ。佐藤元空將の警抜の熱弁を聞いて、借景として樋口將軍がうかがった。*加藤寛(武官)の秘めたる心緒によりインドネシア残留日本兵の歴史が陽の目をみた。加藤元提督の心情吐露は小紙が本邦初公開である。雑誌「正論」四月号に上坂冬子氏が関連した記事を寄稿しておられる。併せて読まれんことを。(新)